



世界森林白書

2009年報告



編集

国際連合食糧農業機関 (FAO)

翻訳・発行

JAICAF ジェイカフ

国際農林業協働協会 (JAICAF)

STATE OF THE
WORLD'S FORESTS
2009

Published by
arrangement with the Food and Agricultural Organization
of the United Nations
by
Japan Association for International Collaboration
of Agriculture and Forestry
JAICAF

編集：

Electronic Publishing Policy and Support Branch Communication Division, FAO

表紙の写真：

表・左：FAO/FO-6120/M.C. Yang

裏・左：FAO/FO-5043/B. Heois

表・中：R. Faidutti

裏・中：UK Forestry Commission/1057657/J. McFarlane

表・右：FAO/FO-6664/M. Kashio

裏・右：FAO/FO-6003/B. Vivattana

本書の原文は、国際連合食糧農業機関（FAO）によって発行された「State of the World's Forest 2009」であり、日本語版は（社）国際農林業協働協会（JAICAF）が作成した。

本書で使用する呼称および資料は、いかなる国、領土、都市、地域、それらの関係当局の法的地位または発展状況に関する、または、それらの国境あるいは境界の画定に関するFAOのいかなる見解をも表明するものではない。特定企業または製造業者の（その特許の有無にかかわらず）特定製品への言及は、本書で言及されなかった類似の性質を持つ他の企業や製品よりもそれらを優先して、FAOが支持もしくは推薦することを意味するものではない。

無断複写・転載を禁じる。教育、その他の非商業目的であれば、著作権保有者の書面による事前の同意を得なくとも、出典を明記することを条件に、本書の資料を複製および配布できる。著作権保有者の書面による同意なしに、本書の資料を、転売、その他の商業目的で複製することを禁じる。これらの許可の請求を希望する場合には、下記の担当者に連絡されたい。

Chief, Electronic Publishing Policy and Support Branch, Communication Division,
FAO, Viale delle Terme di Caracalla, 00153 Rome, Italy

電子メール：copyright@fao.org

FAOの刊行物の請求先：

SALES & MARKETING GROUP Communication Division

Food and Agriculture Organization of the United Nations

Viale delle Terme di Caracalla - 00153 Rome, Italy

電子メール：publications-sales@fao.org

ファクス：(+39)06 57053360

ウェブサイト：www.fao.org

©JAICAF, 2009 (Japanese edition)

©FAO, 2009 (English edition)

目 次

緒 言	v
謝 辞	vii
略 称	viii
要 約	xi

第 1 部

地域別の見通し	3
アフリカ	5
アジア・太平洋	24
欧 州	44
中南米・カリブ海	64
北 米	86
西・中央アジア	106

第 2 部

今後の動向への対応	127
木材製品に対する世界の需要	128
森林の環境サービスに対する需要を満たす	145
制度・体制の変革	162
森林科学・技術の進歩	178

追 記

激動の時代における課題と機会	197
----------------------	-----

付 録	207
表 1	
国・地域別基礎データ	208
表 2	
森林面積とその推移	218
表 3	
森林の蓄積量、生物体量および炭素量	228
表 4	
木材燃料、丸太および製材の生産、貿易および消費量（2006年）	238
表 5	
合板等、パルプおよび紙の生産、貿易および消費量（2006年）	248
表 6	
林業部門の雇用および国内総生産に対する寄与度（2006年）	258
参考文献	271

緒 言

世界森林白書は、隔年毎に出版され、森林に影響を及ぼす主な動向について、グローバルな視点から論じており、2009年版では、「社会、森林および林業：今後の動向への対応」をテーマに据えた。

2007年版では、森林資源を中心に、「供給側」に重点を置き「持続可能な森林経営の推進に向けた取り組み」を検討したが、2009年版では、「需要側」に重きを置いて、「将来の世界の人口増加、経済の発展、グローバル化は、森林にどのような影響を及ぼすのか」、「世界貿易の急増は世界の森林にプラスの影響をもたらすのか、マイナスの影響をもたらすのか」、「農村社会への生計手段の提供で、森林部門は今後も中心的な役割を果たしていくのか」について論じる。

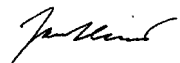
今回の第8版では、第1部において森林および林業の見通しを地域別に整理する。FAOは各地域の国および組織と共同で、その地域の森林部門の見通しに関する調査報告書を定期的にまとめているが、今回初めて、全地域の調査報告書の結果を1つの刊行物としてまとめ、ここに紹介する。各地域に共通して言えるのは、経済発展と森林の現況の間に強い相関関係が見られることである。経済が急成長期にある国では森林に大きな負担がかかる傾向にあるのに対して、すでに高度な経済発展を遂げている地域では通常、森林面積の安定確保や増加が可能である。とはいえ、森林に影響を与える要素は数多くあり、かつ、複雑で、単純な結論や信頼性の高い予測を出すことが難しい。

第2部では、林業がどのように今後の動向に対応していくべきかについて考察する。まず、生産、消費および貿易の傾向の変化に注目して、2030年までの木材製品に対する世界の需要見通しについて述べ、次に、森林の環境サービスに関する章において、森林と樹木が、土地、水、生物多様性の保護や炭素固定など、環境サービスの機能を果たすことを後押しするようになってきた様々な市場メカニズムおよび非市場メカニズムを精査する。現状に合わせた制度・体

制の改変に目を向け、コミュニケーションの急速な変化、グローバル化、社会の期待への対応が難しい森林関連の制度・体制が多いことを明らかにする。こうした対応に前向きで、かつ、実際に対応できる制度・体制は、将来、成功を取める確率が高い。第2部の最後に、森林と林業の将来に多大なる影響を及ぼし続ける科学と技術の進歩について検討する。石油に代わって樹木が自動車の最大の燃料源になる世界を想像して欲しい。わずか数年前まで、これは単なる空想に過ぎなかったが、今日ではその可能性を本格的に検討する必要に迫られている。

おりしも本書が印刷に回されようとする2008年後半、世界は、米国における住宅産業の縮小とサブプライムローン問題に端を発した不況に陥り、ほぼすべての国がこの景気悪化の影響を受けている。時期的に間に合わず、これらの出来事を本書の本文に盛り込むことができなかつたため、今回の経済危機が森林および林業に与えた影響と今後、与える影響を取り上げた追記を挿入した。この追記では、状況が今後、どのように展開していくか不透明な部分が多いものの、経済危機によって、森林部門が発展するための新たな道筋をつける機会を得ることができるやもしれないと強調している。

本書には、大きな目的が2つある。森林に関連した政策と研究を支えるための情報源の役目を果たすことを意図しているのはこれまでと変わらないが、今回はこれに加えて、世界の森林の将来についての創造的な思考と議論を刺激する上で役に立つことができればと願っている。



Jan Heino

FAO林業局次長

謝 辞

本書を取りまとめるにあたっての調整は、C.T.S. Nair が行った。編集を担当したA. Perlisと、調査協力を携わったR. Ruttに特に謝意を表する。

以下のFAO職員が執筆と文章の見直し、表、地図、図表などの作成協力を携わった。M. Achouri, G. Allard, B. Amado, S. Appanah, J.L. Blanchet, M. Boscolo, S. Braatz, A. Branthomme, J. Broadhead, C. Brown, J. Carle, C. Carneiro, F. Castaneda, M. Chihambakwe, R. Czudek, P. Durst, C. Eckelmann, T. Etherington, P. Evans, V. Ferreira, B. Foday, M. Gauthier, A. Gerrand, S. Grouwels, J. Heino, S. Hetsch, T. Hofer, P. Holmgren, A. Inoguchi, O. Jonsson, R. Jonsson, F. Kafeero, W. Killmann, D. Kneeland, P. Kone, M. Laverdiere, A. Lebedys, M. Lobovikov, Q. Ma, L. Marklund, R.M. Martin, M. Morell, E. Muller, F. Padovani, M. Paveri, E. Pepke, J.A. Prado, C. Prins, D. Reeb, D. Rugabira, O. Serrano, O. Souvannavong, R. Suzuki, T. Vahanen, P. Vantomme, A. Whiteman, M.L. Wilkie, J. Zapata-Andia.

寄稿および見直しで協力をしてくださった以下の方々に、FAOは特に感謝申し上げます。

L. Alden Wily, D. Baskaran Krishnapillay, S. Boucher, M. Boyland, J. Campbell, J. Cinq-Mars, A. Kaudia, R. Keenan, L. Langner, J. Maini, E. Mansur, P. O' Neill, J. Parrotta, R. Persson, F. Raga Castellanos, M.A. Razak, R. Sedjo, J. Severino Romo, H.C. Sim, E. Sirin.

また、生物多様性条約 (CBD)、国際林業研究センター (CIFOR)、国際熱帯木材機関 (ITTO)、国際林業研究機関連合 (IUFRO)、砂漠化対処条約

世界森林白書

(UNCCD)、国連環境計画 (UNEP)、国連森林フォーラム (UNFF) および国連気候変動枠組条約 (UNFCCC) をはじめ、森林に関する協調パートナーシップ (CPF) のメンバーからは、第2部に掲載された寄稿で協力を賜った。

編集と製作の支援は、FAO Electronic Publishing Policy and Support Branch の職員が行った。

略 称

CAMPFIRE	先住民資源の地域社会による管理プログラム
CBD	生物多様性条約
CDM	クリーン開発メカニズム
CIFOR	国際林業研究センター
CIS	独立国家共同体
CPF	森林に関する協調パートナーシップ
ECOWAS	西アフリカ諸国経済共同体
EFSOS	欧州森林部門の見通しに関する調査報告書
FECOFUN	ネパール地域林利用者連合
FLEG	森林法の施行およびガバナンス
FSC	森林管理協議会
GCC	湾岸協力理事会
GDP	国内総生産
GIS	地理情報システム
ICT	情報通信技術
IEA	国際エネルギー機関
IIED	国際環境開発研究所
IPCC	気候変動に関する政府間パネル
ITTO	国際熱帯木材機関
IUCN	国際自然保護連合
IUFRO	国際林業研究機関連合
LULUCF	土地利用、土地利用変化および林業
MCPFE	欧州森林保護に関する閣僚会合
MTOE	石油換算百万トン

世界森林白書

NAFTA	北米自由貿易協定
NGO	非政府組織
NLBI	すべてのタイプの森林に関する法的拘束力を持たない文書
NWFP	非木材林産物
PEEN	汎ヨーロッパ生態系ネットワーク
PEFC	森林認証プログラム
PES	環境サービスに対する支払い
R&D	研究開発
REDD	森林減少・劣化に由来する温室効果ガス排出削減
REIT	不動産投資信託
SADC	南部アフリカ開発共同体
SWF	国家資産基金
TIMO	森林投資管理組織
UN	国際連合
UNCCD	砂漠化対処条約
UNCED	国連環境開発会議
UNECE	国連欧州経済委員会
UNEP	国連環境計画
UNESCAP	国連アジア太平洋経済社会委員会
UNESCO	国連教育科学文化機関
UNFCCC	国連気候変動枠組条約
UNFF	国連森林フォーラム
WRI	世界資源研究所
WRME	木材原料の相当量

要 約

第8版となる今回の「世界森林白書」(隔年刊)では、森林と林業の今後の展開を準地域、地域、世界全体の各レベルで考察し、FAOの森林担当部門が定期的に発行する見通しについての最新の報告書を踏まえて、人口動態的、経済的、制度的、技術的な変化などの外部要因が森林に及ぼす可能性のある影響を検討する。グローバル化やコミュニケーションの向上にともない、各地域のシナリオは今後、相互の結びつきがますます強くなる。その一方で、行く手に待ち受ける難題に立ち向かい、新たに生まれる機会を捉える態勢をしっかりと整えている国や地域と、自らの森林資源の持続可能な管理に欠かせない制度面、法律面、経済面の整備がまだ十分になされていない国や地域の二極分化が見られる。

第1部：地域別の見通し

アフリカ

アフリカでは、低所得、貧弱な政策、制度の未整備をはじめとする制約を多く受けることから、森林問題への対応が極めて大きな課題となっている。とりわけインフラへの投資が増大して、新たな土地が切り開かれるなか、人口の増加と、食料やエネルギーの価格高騰によって、状況は今後、さらに悪化するとみられる。持続可能な森林経営の導入の進展スピードが鈍ることが予想され、現在のペースで森林の損失が進む可能性が高い。

森林の今後の見通しは、政治面、制度面の動向——公共部門における効率化および説明責任(アカウンタビリティ)の向上、市場制度における包括性、競争性、透明性の強化と、貧困層の生計機会を拡大するインフォーマル部門——に大きく左右される。地域的および世界的に求められる製品とサービスに照準を合わせ、かつ、地域制度の強化を図ることが、森林資源の枯渇問題に対処す

る上で重要な方策になるのではないかと考えられるが、このような取り組みは、農業、畜産、林業に一元的に対応する持続可能な資源管理についての、その地域の知識と経験を土台として進める必要がある。

アジア・太平洋

アジア・太平洋地域に関しては、非常に多種多様であることから、複数のシナリオの展開が予想される。森林面積は、大半の先進国と一部の新興国で安定するか増えるのに対して、森林に恵まれた低・中所得国では、バイオ燃料の原料となる農作物の生産を含めた農業の拡大によって、減少が続くとみられる。

木材・木材製品の需要は、人口と所得が増えるにつれて増大し続けるだろう。新興国の急激な工業化による一次製品の需要の伸びが、アジア・太平洋地域の内外を問わず、他国における森林の転換をもたらす可能性が高い。同地域は現在、造林の先駆的の地域であるが、土地と水が足かせとなって、木材・木材製品の自給率向上の余地が制限され、他地域産の木材に依存し続けるとみられる。所得が上昇するにつれ、森林の環境サービスに対する需要も伸び、地域社会を巻き込んだ保全がますます重視されるようになる可能性が高い。

欧州

欧州では、土地依存度の低下、所得の向上、環境保護への関心、政策・制度の充実を背景に、森林資源の拡大が続くものと予想される。特に西欧においては、最大の関心は引き続き環境サービスの提供にあり、規則や規制によって木材製品の競争力が他の地域よりも低下するとみられる。

森林経営は今後も多彩な目的に対応していこう。採算性は、小規模な森林所有者を中心に課題として残る可能性が高いものの、木材燃料の需要増加によって、これに変化が生じることもあり得る。森林産業は、特に西欧においては、労働集約型のセグメントで、他の地域に比べ競争力を低下させていく恐れもあるが、先端技術を用いた製品の生産では主導権を握り続ける可能性が高い。欧州地域内では、東欧の経済力が西欧に追いつくにつれて、東欧と西欧の林業の

差も小さくなっていくものと考えられる。

中南米・カリブ海

中南米・カリブ海地域では、森林と林業が、経済の多様化が進む速度と土地依存度の変動による影響を受ける。人口密度が高い中米とカリブ諸国では、都市化の進展により離農が促され、森林伐採が減り、一部の伐採地が森林に戻されるとみられる。一方、南米では人口密度が低いにもかかわらず、近い将来に森林が減少する速度が鈍る見込みはない。食料と燃料の価格高騰の影響などから、世界の需要を満たすべく、畜産や、食用、飼料用、燃料用の農作物の生産を行うために、森林伐採が続くだろう。土地保有（権）の定義があいまいな数多くの国では、持続可能な森林経営が引き続き課題となる。

現在、森林がもたらす、炭素の固定と貯蔵をはじめとした地球公共財に対する需要が高まっており、中南米・カリブ諸国はその恩恵を受ける機会に恵まれているが、この好機をつかむためには、政策と制度の枠組みを大幅に改善する必要がある。民間投資と、アジアからの木材・木材製品に対する需要の底堅さを追い風に、造林は増える。しかしながら、造林面積の増加幅が、止まらない森林伐採による減少分を補うことのできる水準に達する見込みはない。

北 米

林業の短期的将来は、特に米国において、いかに早く最近の不況から脱出し、不況が木材・木材製品の需要に与える悪影響を食い止めることができるかによって決まる。森林部門は、頻度と深刻さを増す森林火災や害虫の侵入による被害を含めた気候変動の課題に対処することも求められる。とりわけセルロース系バイオ燃料の生産が採算の取れる事業になれば、木材はエネルギー源として需要が増える。そして、需要の伸びにともない、造林に対する投資が格段に増加するものと考えられる。

カナダと米国に関しては、大手林業企業が自らの所有する森林の売却・整理を進めており、その経営に影響が及ぶ恐れもあるが、森林の面積は今後、比較

的安定して推移していくとみられる。メキシコでは、農業立国から工業立国に移行する速度と、収入源や雇用創出源としての土地への依存度を低下させることができるかどうかによって、森林減少率の動向が変わってくるだろう。林業の採算性は変動し、場合によって低下するかもしれないが、環境サービスの提供は、世間の関心の高まりによって、重要性が増すとみられる。

西・中央アジア

西・中央アジアの森林および林業の見通しは、国によってばらつきがある。所得の向上と都市化によって、一部の国では森林の状況が改善されるか、現在とほぼ変わらないものと予測されるが、農業主体の低所得国の多くについては、先行きが明るいとは決していえない。比較的豊かであっても、きちんとした制度が整備されていない国では、森林の劣化は解消されることはないであろう。全体的に見て、森林部門は公共投資における優先順位が低いのが現状である。

生育条件に恵まれないため、木材の商業生産の将来性もあまり望めない。所得の急激な向上と人口増加率の高さから、この地域ではほとんどの木材製品の需要を輸入に頼って満たす状況が続くものと考えられる。林業にとって、土地の劣化と砂漠化の防止、流域の保護、都市環境の改善などを中心とした環境サービスの提供は、引き続きその存在価値を正当化する最大の理由となるだろう。資源管理に対する統合的な取り組みを促進するためには、とりわけ地元レベルでの制度作りが求められる。

第2部：今後の動向への対応

木材製品に対する世界の需要

森林所有者が、その経営を行い、モノとサービスに対する需要を満たすことで、どれだけの収入を得ることができるかが、森林経営投資の最大の決定要因となる。一方、木材製品に対する世界の長期的需要は、人口動態上の変化、経済成長、地域の経済体制の移行、環境・エネルギー政策に左右されよう。

これから2030年までの主要な木材製品と木質エネルギーの生産と消費は、おおむね従来の傾向通りの伸びを示すことが予想される。再生可能エネルギーの利用拡大を推進する政策によって、欧州を中心に、木材のエネルギー源としての消費が急増することが、今後の最も顕著な変化となろう。最大の伸びを示すのはやはりアジアで、合板等、紙および板紙の生産、消費ともに最大の規模を誇るようになる（ただし、国民一人当たりの消費量は、今まで通り欧州と北米の方が多）。アジアでは、産業用素材の生産量が消費量を大幅に下回り、輸入への依存がさらに増していくだろう。

セルロース系バイオ燃料の大規模商業生産の発展性は今後、かつてないほどの影響を森林部門に及ぼすだろう。輸送コストの上昇もまた、木材製品に対する需要を左右するとみられる。これらの要素や為替レートの変動などが、森林部門の競争力に反映され、大半の林産物の生産と消費に影響を与えるだろう。

今後はますます、人工林産の産業用素材が増える可能性が高い。このように人工林への移行が進むことは、森林経営にとって、興味深い機会であるとともに、課題ともなる。

森林の環境サービスに対する需要を満たす

所得と意識の向上にともない、今後は、きれいな空気と水、気候変動の緩和、手つかずの自然の景観など森林がもたらす環境サービスへの需要が高まる。所得の向上は同時に、環境保護に要する経費をまかなう社会の経済力を高める反面、経済が成長するにつれて、環境に与える影響が増すことが少なくない。とりわけ高度成長期にある諸国では、一時期、森林資源の開発を進めることで、その環境サービスを低下させてしまうケースが多い。森林の環境サービスを現状のまま維持していくためには、製品の生産とサービスの提供のバランスをとる必要がある。

環境サービスに対する需要を満たす森林の能力確保を助ける規制アプローチとしては、保護区の指定、持続可能な森林経営のための方策や、グリーン公共調達政策などが挙げられる。

また市場原理を活用したアプローチには認証制度、排出権取引市場、環境サービスに対する支払い制度（PES）などがある。第三者機関による森林認証制度は、認証の取得に必要な費用をカバーできる価格プレミアムを生むことがやはり課題であるものの、今後も普及が進む。森林所有者に妥当な対価を支払う取り組みは、森林保全を支える手段として大きな注目を集めている。レクリエーションサービスを対象とした、こうしたシステムはかなり前からあったが、現在は、流域の保護、多様性の保全、炭素固定を対象としたものが導入されつつある。今後はこのようなスキームの増加が予想されるが、その成功には、制度面、法律面の枠組みの整備が欠かせない。

気候変動交渉では、森林減少・劣化に由来する温室効果ガス排出削減（REDD）に複数の選択肢を設けることを巡り、議論が繰り返され、様々な面で期待が高まっている。しかしながら、森林破壊を食い止めた者に報奨金などを給付するには、複合的な政策が必要であるとともに、制度面、倫理面での検討も求められる。

制度・体制の改革

森林部門の制度・体制——公的機関、民間部門、市民社会団体、インフォーマル部門、国際機関——間のバランスを変えていく。社会が社会面、経済面、環境面の変化に適合していく上では今後、これが重要な役割を果たす。新たなプレイヤーの登場にともない、制度・体制間の勢力地図が今まで以上に複雑になっている。世界的にみて（すべての国ではないが）、新たな情報通信技術の誕生などによって対等化が進みつつある。強く求められてきた多元主義によって、中小規模の事業体や地域社会の組織は新たな機会を得ることができるようになった。これまで現場を支配してきた政府の森林管理機関も、変化に適合できなければ、無用の長物となりかねない。

グローバル化の加速にともない、森林投資管理組織（TIMO）、不動産投資信託（REIT）、国家資産資金（政府系投資ファンド）、排出権取引制度などの新たなプレイヤーが、世界の制度・体制の地図を塗り替えることも考えられる。各

制度・体制は今後、細分化のバランスを取り、一元的な取り組みを行うために、大きな重圧を受けるだろう。

森林科学・技術の進歩

変化の目覚ましさを考えると、森林科学・技術の将来を思い描くことは難しい。革新によって、森林部門はこれまで社会の需要の移り変わりに対応する力を高めてきたし、それは今後も続くであろう。しかし、確かな技術力をほとんど、あるいは全く持たない開発途上国が多く、これが、その長期的な発展の足かせとなっている。先進国であっても、森林科学・技術力が低下してきたところは少なくない。

とはいえ、生産、収穫、加工から木質エネルギー、環境サービスの提供まで、森林に関わるあらゆる分野で、研究が続けられ、新境地が切り開かれている。このような進歩に寄与しているのは、バイオテクノロジー、ナノテクノロジー、情報通信技術などの比較的新しい分野である。その一方で、土着の知識の価値に対する認識も、次第に高まってきた。

商品化に重点を置いた民間部門による研究が増え、公共部門の研究力が低下してきたことで、数多くの問題が生まれている。新たな技術を手に入れる資金のない圧倒的多数の人々が、民間部門による研究のメリットを享受することから排除されるのは決して珍しいことではない。これが、知識に触れる機会の不均等を倍化させ、所得水準や生活水準にも影響を及ぼしている。

科学・技術力の不均衡と不足に対処するには、今まで以上に一体となって取り組んでいく必要があり、そのためには、国と国の間や、国内における技術の流れを阻む障害の低減、社会・環境に関する問題の「主流化」、従来の部門の垣根を越えた、森林部門以外の科学的・技術的進歩の活用などの課題がある。

追記：激動の時代における課題と機会

おりしも本書が印刷に回されようとするこの時期（2008年後半）に、世界経済は深刻な不況の只中にある。米国における住宅産業の縮小とサブプライムロ

ーン問題が金融市場に大きな打撃を与え、これが、ほぼすべての国を巻き込む景気後退の引き金を引き、楽観的であったそれまでの経済予測の変更を余儀なくした。

こうした変化は、森林部門に果たしてどのような影響を及ぼすのか。住宅部門の崩壊によって、様々な木材・木材製品の需要が減り、これが工場の閉鎖や失業を引き起こし、その結果、新規の投資が鈍化して、木材に関連するすべての産業がこの影響を受けている。

環境サービスに対する需要も、その代金を支払う能力と意欲の低下によって、変化している。炭素価格についても、相変わらず変動が激しい。各国は経済危機への取り組みを優先させており、今後、気候変動に関わる協定の交渉が難航することも考えられる。

森林資源が受ける恐れのあるマイナスの影響としては、持続可能な森林経営への投資の減少や、経済部門の低迷がインフォーマル部門拡大の機会をもたらすことにともなう違法伐採の増加などが挙げられる。これまで弱まってきていた土地依存も再び強まり、農業活動の森林への拡大、森林の減少、いったん増加した森林の再度の喪失といったリスクが高まる可能性もある。その一方で、木材に対する需要の減退により、森林への圧力が低減したり、オイルパーム、大豆、ゴムなどの商品作物の価格下落にともない、これら作物を栽培するプランテーションへの森林の転換が減少したりなど、プラスの影響も期待できる。

世界経済がいつ回復に向かうのか、今はまだその目処すら立たない。だが、こうした危機は、開発の新たな道筋をつける機会を与えてもくれる。(例えば造林や再造林、持続可能な森林経営への投資拡大による)天然資源資産の構築、農村地域の雇用創出、グリーンビルディングの実践や再生可能エネルギーにおける木材の活用の積極的な推進を通じ、開発への「グリーンパス(緑の道)」を模索することが、森林部門のためになるのではなかろうか。こうした路線の変更には言うまでもなく、制度・体制の抜本的な変革が必要となるが、今回の危機で、長年の懸案となっていた改革を受け入れ、実行に移す意欲が高まるやもしれない。